

八戸これかはの安藤三郎かめきぬ  
をんなハひかしのかとたね一のもくし  
きとう四郎にハつくかたのめひ也

かのきぬをんなの申ていはく

わらハかはゝハやくにんたりきちゝ

せいとうさいくハラうにん也うむこ

一はんきぬ女 わらハか事にて候也

二はんくわんのうはうハ十五にてしぬと申

三はんうぬきぬ女つちはしのよとう入とのめ也

四はんとう太さいくこれかは二あり

五はんくまかねわらハ九にてしぬと申

クマカネアサ三郎エユク

六はんひこいぬ女三戸にしきのいや三郎とのゝ

まへに候与一郎かめ也

わらハかしそくらの事をとこあんと三郎

ハラうにんにて候也わらハかうむこ

一はんあんとう太郎みなミのひないなか

のゝちう人五郎四郎と申物のもとに候

二はんねいぬ女これかはのこん平せん

たちかめにて候

三はん五郎四郎八戸いはふちのいあミ

たふのまこむこにて候

四はんはう太郎五戸ならさきの

いもふとのもとに候

五はんきぬ女三戸さけこしのよとう

二郎のめにて候

六はんたつ女五戸ならさきの二郎

三郎と申ものゝめにて候

ちとう五代のあいた五十よねんの

ほとハその御さたなく候ところ二たふ

御代二御さた候よし申

正安三年四月廿六日 きぬ女

くありはん

一ひこいぬ女二人ありとも二やく人也

へちのかた也

- 一 あんとう太郎こ四人内二人つくかた也
- 一 五郎四郎こ二人内一人つくかた也
- 一 きぬ女こ一人あり さけこしにあり
- 以上十一人也

一 よとうしかいもふと一るいにつくかた

四人ありこのうちをとこ一人女二人御た？ね候て

わらハ二人

五

以上四人

一 きとう四郎二つくかたきたのかとより

さたしいたすひさはらわらいならひ二

いもふと

二人内ひさはらわらハ御うちにある

つる女子八才きたのかとたこにあり

以上二人

以上たね一二遣りやう

三十六人